特集 仙台初売りで1年の買い初めを！

仙台が全国に誇る伝統文化「仙台初売り」が、2022年も1月2日から一斉に開催されます。仙台初売りは、藩政時代から200年以上の間続いていると言われる、全国的にも珍しい街をあげて実施する市民の買い初め行事。

今月号では、仙台初売りがどのようにして伝統ある商習慣となっていったのか、その歴史をたどるとともに、仙台初売りを安全・安心に楽しんでいただくための感染症対策などについて紹介します。

仙台初売りの起源

「仙台初売り」が、いつから始まったのかはっきりとした記録はありませんが、藩政時代の文化文政年間（1804〜1824年）に発行された「仙台年中行事」という書物に、「2日朝早くから店の格子戸を叩いて初売り買い…」という記述が残っています。そのことから、当時すでに仙台藩のみならず広く藩外にも知られた行事であったことがうかがえます。

1月2日実施となった経緯 ～仙台商人の心意気でおもてなし～

「元日の掃除は福を掃きだし、買い物はお金を吐き出し、1年の浪費につながる」という言い伝えもあり、商業者や消費者の多くは、元日に「事」を始めることを避けていました。さらに、日本では、1月2日は「初夢」や「書き初め」など、「年始事始め」の吉日とする考えがあります。このようなことから、仙台商人は1年の変わらぬご愛顧と謝恩の心意気をもって、豪華な景品を準備し、1月2日に「仙台初売り」を実施してきたのです。1849（嘉永2）年の「仙台年中行事大意」にも、日が昇る前に出掛けて買い初めを楽しんでいたという記載があり、売り手・買い手ともに、2日の買い初めが正月の習慣となっていたことが分かります。

仙台だけに認められた特例 ～国が認めるほどの特別な行事～

毎年、仙台初売りは、豪華景品等を求める多くの買い物客でにぎわいます。こうした景品類は本来、国の取り決めで商品価格の10％までと上限が定められていたのですが、仙台では20％まで景品の提供が認められていました（現行法では全国一律20％）。これは、仙台初売りが「歴史ある商習慣に基づくもの」という理由で、公正取引委員会から、正月三が日、旧仙台藩地域に限り認められた特例です。

このように、古くから続く伝統文化である「仙台初売り」は、200年以上の時を経た今もなお、受け継がれ、国内最大規模を誇る「初売り」として国内外からも注目を集めています。

仙台初売りの伝統を守り続けている実施店からお話を伺いました

新年の商店街を歩き、お店で買い物をする楽しみを味わってください。

お茶の井ヶ田㈱
代表取締役
井ヶ田 健一 氏
（いげた・けんいち）

1つのアイデアが仙台初売りの象徴に

2021年6月、一番町一番街商店街で90年以上にわたって営業してきた本店を、クリスロード商店街へと移転しました。2022年の初売りは、新たな場所で初めて行うお祭りになりますので、広くなった店内と幅広い品ぞろえで、例年以上に充実した内容にしたいと思っています。

藩政時代から続く伝統ある仙台初売りの歴史の中で、弊社が「初売りの豪華景品といえば、お茶の井ヶ田のお茶箱」と、皆さんにおっしゃっていただけるようになったのは、本当にありがたいことと感謝しています。

最初に「お茶箱を初売りの景品に」と考えたのは、初代の井ヶ田周治で、記録には1935年から始めたとあります。その頃の仙台のお茶屋の中では、新しい店だったこともあり、皆さんに何とかお店を覚えていただき、買い物を楽しんでいただきたいという思いから、さまざまなアイデアを駆使したようです。初代は新しもの好きで、当時、警察にも何台もなかったというハーレーダビッドソンを、お茶の配達に使っていたという記録も残っているほど。そのアイデアの1つが、お茶箱を初売りの景品にすることでした。

1935年というと、今からおよそ90年ほど前ですから、まだ段ボールはなく、当時、静岡から仙台にお茶を運ぶのに使われていたのは、木製のお茶箱でした。静岡から仙台までの片道だけ使われていたので、手元に新品同様のお茶箱がたくさんあったわけです。この木箱は機密性が高く、虫や湿気を寄せつけないという特徴を備えていましたので、衣類や書類の保管用にも大変喜ばれました。

実は、このお茶箱も作り手が少なくなり、継続が危ぶまれた時期もありました。今から10年ほど前に、お茶箱が提供できなくなる事態を危惧した弊社会長が、地元仙台の同業者の方とともに、静岡の製造現場へ視察に伺ったことがありました。そこには職人さんが7人ほどいましたが、皆さんご高齢で、後継者もいないということでした。そこで、仙台初売りの景品として、お茶箱を継続して提供したいと考えた弊社会長は、製造可能な会社を必死に探したそうです。その結果、塩竈で魚箱をつくっている会社と出会い、お茶箱の製作を依頼したところ、引き受けていただけることになりました。こうした歴史を経て、今も弊社が仙台初売り発展の一翼を担わせていただけていることをうれしく思っています。

期待の重さを実感 従業員一丸で伝統継承

新年の縁起物として、福袋を用意する百貨店や小売店は多いと思いますが、お茶箱は見た目のインパクトも手伝って、各メディアから取材していただくことも多くなりました。毎年、年の初めに取材され、全国に発信していただけるコンテンツを有する企業は、そう多くはないと思っています。全国から注目されていることに、仙台商人として背筋が伸びる思いですし、従業員たちも、「街のにぎわいを創出しよう」という意気込みで一丸となって取り組んでいます。

2022年の初売りも、本年同様、感染症対策をしっかりと行い、商店街でのお買い物が、より一層魅力的になるよう工夫を凝らしていきます。店先にできる行列も、仙台初売りの風物詩ではありますが、コロナ禍においては、インターネットで事前にお申し込みをいただくことで、密になる状況を回避します。

仙台という土地に根づいた初売りの商習慣は、長い時間をかけて発展してきた独自のものだと思います。コロナ禍で、弊社もインターネット販売による割合が増えましたが、私たちは対面での販売を大切にしています。現在はさまざまな方法で買い物ができますが、新年を迎えた街に出て、実際の店舗で買う楽しさをぜひ味わっていただきたいと思います。

1965年ごろのお茶の井ヶ田の初売りの様子。老若男女問わず、茶箱を求める多くの買い物客でにぎわいをみせていた。（写真提供：お茶の井ヶ田㈱）

2022年の仙台初売りにおける主な感染症対策

①期間拡大、福袋の事前予約

来店客の集中を避けるため、2021年と同様に初売り期間を拡大します。また、福袋も2021年内の事前予約を可能とし、2022年1月2日以降の受け渡しとなります。

②初売り実施店における感染症対策の徹底

実施店では、専門家による勉強会を実施し、そこで学んだ内容を生かして、3密を避けるための販売体制や顧客導線の確保等、徹底した感染症対策を行います。お買い物をする側の皆さんも、アルコール消毒やマスクの着用のほか、体調の悪い時には外出自粛にご協力をお願いします。

仙台初売りはキャッシュレス決済でお買い物をお楽しみください

商品券が当たる「年末年始キャッシュレスキャンペーン2021-22」を開催！

2021年12月20日(月)から2022年1月31日(月)までの期間、キャンペーン参加店でキャッシュレス決済を利用して買い物をすると抽選で商品券が合計100人に当たるキャンペーンを開催します。応募には専用アプリ「仙台まちいこ」のダウンロードが必要となります。詳細は本キャンペーン特設サイトよりご確認ください。

URL：https://www.sendaicci.or.jp/cashless-campaign/

仙台初売り実施店および各商店街では、安全・安心に買い物いただけるよう、徹底した感染症対策でお迎えする準備を進めています。お越しになる皆さんも適切な感染症対策を行った上で、新年の買い初めを伝統の仙台初売りでお楽しみください！

※本特集に掲載している内容は11月25日時点の情報です。新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、開催内容等が変更となる場合があります。最新情報は、仙台初売り公式ホームページもしくは12月26日発行の河北ウィークリーせんだい「仙台初売り特集号」でご確認ください。

仙台初売り公式ホームページ：https://sendaihatsuuri.com

より良い環境をめざす。
青葉環境保全 AOBA
〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1　TEL 022(286)3161(代)